

## 介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

科目名	人間の尊厳と自立		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	5 時間
担当講師	小関美幸	必修・選択	必修
到達目標	尊厳の保持、自立の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。		
授業全体の内容の概要	レポート課題提出により、修得度の確認と質問票を用いての自己学習		
授業の目的・ねらい	①人間の尊厳と自立		
授業項目	時間数	学習内容	
人間の多面的な理解と尊厳	2.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間を理解すること</li> <li>・人間の尊厳の意義</li> <li>・人権、そして尊厳をめぐる歴史的経緯</li> <li>・人権、そして尊厳に関する諸規定</li> </ul>	
自立・自律の支援	2.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護における自立</li> <li>・自律への意欲と動機づけ</li> <li>・自律した生活を支えるための援助の視点</li> <li>・介護における自立支援の実践</li> </ul>	
人権と尊厳	1.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護における権利擁護と人権尊重</li> <li>・高齢者虐待の実態と介護の課題</li> <li>・尊厳の保持をめざした介護実践</li> <li>・ノーマライゼーションの実現</li> <li>・プライバシーの保護</li> </ul>	
評価の方法および基準	レポート問題による添削 70点以上で合格(69点以下の者は再度、試験・評価を行う)		
使用テキスト	中央法規出版株式会社発行 『介護福祉士実務者研修テキスト(1巻)』		

## 介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

科目名	社会の理解 I		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	5 時間
担当講師	小関美幸	必修・選択	必修
到達目標	介護保険の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。		
授業全体の内容の概要	レポート課題提出により、修得度の確認と質問票を用いての自己学習		
授業の目的・ねらい	①介護保険制度		
授業項目	時間数	学習内容	
介護保険制度創設の背景と目的	1.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度の創設をめぐる社会的背景</li> <li>・1990年代までの高齢者介護の制度と社会福祉基礎構造改革</li> <li>・介護保険制度の基本理念</li> </ul>	
介護保険制度の基礎的理解	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度の概要</li> <li>・保険者・被保険者</li> <li>・保険給付の対象者</li> <li>・保険給付までの流れ</li> <li>・保険給付の種類と内容</li> <li>・地域支援事業</li> <li>・国・都道府県・市町村の役割</li> <li>・その他の組織の役割</li> <li>・介護保険の財政</li> </ul>	
介護保険制度における専門職の役割	1.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職の役割</li> <li>・介護支援専門員の役割</li> <li>・その他の専門職の役割</li> </ul>	
評価の方法および基準	レポート問題による添削 70点以上で合格(69点以下の者は再度、試験・評価を行う)		
使用テキスト	中央法規出版株式会社発行 『介護福祉士実務者研修テキスト(1巻)』		

## 介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

科目名	社会の理解Ⅱ		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	30 時間
担当講師	小関美幸	必修・選択	必修
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族、地域、社会との関連から生活や福祉をとらえることができる。</li> <li>・ 地域共生社会の考えた方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得している。</li> <li>・ 社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得している。</li> <li>・ 障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し利用者等に助言できる。</li> <li>・ 成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関する制度の概要を理解している。</li> </ul>		
授業全体の内容の概要	レポート課題提出により、修得度の確認と質問票を用いての自己学習		
授業の目的・ねらい	<p>①社会と生活のしくみ</p> <p>②地域共生社会の実現に向けた制度や施策</p> <p>③社会保障制度</p> <p>④障害者総合支援法</p> <p>⑤介護実践に関する諸制度</p>		
授業項目	時間数	学習内容	
生活と福祉	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活の基本機能</li> <li>・家族</li> <li>・地域</li> <li>・社会集団と組織</li> <li>・ライフスタイルの変化</li> </ul>	
地域共生社会の実現に向けた制度や施策	2.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域共生社会とは</li> <li>・地域包括ケアシステムとは</li> </ul>	
社会保障制度	10.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障の概念・範囲</li> <li>・日本の社会保障の発達</li> <li>・社会保障の意義・役割</li> <li>・社会保障の目的・機能</li> <li>・日本の社会保障制度のしくみ</li> <li>・年金保険</li> <li>・医療保険</li> <li>・後期高齢者医療制度</li> <li>・雇用保険</li> <li>・労働者災害補償保険</li> <li>・公的扶助</li> <li>・社会手当</li> <li>・社会福祉</li> </ul>	

障害者自立支援制度	10.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の種類と定義</li> <li>・障害者自立支援法から障害者総合支援法へ</li> <li>・サービスの種類と内容</li> <li>・サービス利用の流れ</li> <li>・自立支援給付と利用者負担</li> <li>・障害者自立支援制度における事業者</li> <li>・障害者自立支援制度における組織・団体の機能と役割</li> <li>・ライフサイクルから見た支援組織</li> </ul>
介護実践にかかわる諸制度	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスの利用にかかわる諸制度</li> <li>・虐待防止の諸制度</li> <li>・人々の権利を擁護するその他の諸制度</li> <li>・保健医療にかかわる諸制度</li> <li>・介護職と医療にかかわる諸制度</li> <li>・生活を支える諸制度</li> <li>・住生活を支援する諸制度</li> </ul>
評価の方法および基準	レポート問題による添削 70点以上で合格(69点以下の者は再度、試験・評価を行う)	
使用テキスト	中央法規出版株式会社発行 『介護福祉士実務者研修テキスト(1巻)』	

## 介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

科目名	介護の基本 I		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	10 時間
担当講師	小関美幸	必修・選択	必修
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護福祉士の法的な定義や義務を踏まえ、介護予防や看取り・災害時等における介護福祉士の役割を理解している。</li> <li>・ 個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。</li> <li>・ 介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。</li> </ul>		
授業全体の内容の概要	レポート課題提出により、修得度の確認と質問票を用いての自己学習		
授業の目的・ねらい	<p>①介護福祉士の役割と機能</p> <p>②尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開</p> <p>③介護福祉士の倫理</p>		
授業項目	時間数	学習内容	
介護福祉士の制度	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士を取り巻く状況</li> <li>・社会福祉士及び介護福祉士法</li> <li>・介護福祉士のキャリアパス</li> <li>・介護福祉士の活動の場と役割</li> </ul>	
尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者に合わせた生活支援</li> <li>・自立に向けた支援</li> <li>・自立に向けたICFの考え方</li> <li>・自立に向けたリハビリテーションの考え方</li> <li>・自立に向けた個別ケアの考え方</li> <li>・介護の専門性</li> </ul>	
介護福祉士の倫理	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士としての倫理の必要性</li> <li>・日本介護福祉士会倫理綱領</li> </ul>	
評価の方法および基準	レポート問題による添削 70点以上で合格(69点以下の者は再度、試験・評価を行う)		
使用テキスト	中央法規出版株式会社発行 『介護福祉士実務者研修テキスト(2巻)』		

## 介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

科目名	介護の基本Ⅱ		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	20 時間
担当講師	小関美幸	必修・選択	必修
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。</li> <li>・ チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得している。</li> <li>・ リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得している。</li> <li>・ 介護従事者の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得している。</li> </ul>		
授業全体の内容の概要	レポート課題提出により、修得度の確認と質問票を用いての自己学習		
授業の目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>①介護を必要とする人の生活の理解と支援</li> <li>②介護実践における連携</li> <li>③介護における安全の確保とリスクマネジメント</li> <li>④介護従事者の安全</li> </ul>		
授業項目	時間数	学習内容	
介護を必要とする人の生活の理解と支援	6.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「その人らしさ」の理解</li> <li>・高齢者の暮らしと支援の実際</li> <li>・障害のある人の暮らしと支援の実際</li> <li>・介護を必要とする人の生活環境の理解</li> </ul>	
介護実践における連携	6.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携</li> <li>・地域連携</li> </ul>	
介護における安全の確保とリスクマネジメント	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故防止と安全対策</li> <li>・感染対策</li> </ul>	
介護福祉士の安全	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康管理の意義と目的</li> <li>・健康管理に必要な知識と技術</li> <li>・安心して働ける環境づくり</li> </ul>	
評価の方法および基準	レポート問題による添削 70点以上で合格(69点以下の者は再度、試験・評価を行う)		
使用テキスト	中央法規出版株式会社発行 『介護福祉士実務者研修テキスト(2巻)』		

## 介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

科目名	コミュニケーション技術		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	20 時間
担当講師	小関美幸	必修・選択	必修
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本人・家族との支援関係を構築し、意思決定を支援することができる。</li> <li>・ 利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。</li> <li>・ チームマネジメント(組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ、フォロワーシップ等)に関する知識を理解し活用できる。</li> <li>・ 状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化できる。</li> </ul>		
授業全体の内容の概要	レポート課題提出により、修得度の確認と質問票を用いての自己学習		
授業の目的・ねらい	<p>①介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</p> <p>②介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション</p>		
授業項目	時間数	学習内容	
介護におけるコミュニケーション	2.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの意義、目的、役割</li> <li>・コミュニケーションの技法</li> <li>・支援関係の構築と意思決定の支援</li> </ul>	
介護におけるコミュニケーション技術	6.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聴く技法</li> <li>・利用者の感情表現を察する技法</li> <li>・利用者の納得と同意を得る技法</li> <li>・質問の技法</li> <li>・相談・助言・指導の技法</li> <li>・利用者の意欲を引き出す技法</li> <li>利用者と家族の意向を調整する技法</li> </ul>	
介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション	6.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション障害の理解</li> <li>・視覚の障害に応じたコミュニケーション技術</li> <li>・聴覚の障害に応じたコミュニケーション技術</li> <li>・構音障害に応じたコミュニケーション技術</li> <li>・失語症に応じたコミュニケーション技術</li> <li>・高次機能障害に応じたコミュニケーション技術</li> <li>・知的障害に応じたコミュニケーション技術</li> <li>・精神障害に応じたコミュニケーション技術</li> <li>認知症に応じたコミュニケーション技術</li> </ul>	
介護におけるチームコミュニケーション	6.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームマネジメントの理解と活用</li> <li>・チームのコミュニケーションとは</li> <li>・記録による情報の共有化</li> <li>・報告・連絡・相談による情報の共有化</li> <li>会議による情報の共有化</li> </ul>	
評価の方法および基準	レポート問題による添削 70点以上で合格(69点以下の者は再度、試験・評価を行う)		
使用テキスト	中央法規出版株式会社発行 『介護福祉士実務者研修テキスト(2巻)』		

## 介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

科目名	生活支援技術 I		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	20 時間
担当講師	小関美幸	必修・選択	必修
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。</li> <li>・ ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し実施できる。</li> <li>・ 自立に向けた生活支援技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を習得している。</li> <li>・ 居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解している。</li> </ul>		
授業全体の内容の概要	レポート課題提出により、修得度の確認と質問票を用いての自己学習		
授業の目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生活支援とICF</li> <li>②ボディメカニクスの活用</li> <li>③生活支援技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)</li> <li>④環境整備、福祉用具活用等の視点</li> </ul>		
授業項目	時間数	学習内容	
生活支援とICF	2.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援とアセスメント</li> <li>・ICFの視点とアセスメント</li> </ul>	
居住環境の整備と福祉用具の活用	2.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住環境の意義</li> <li>・生活空間と介護</li> <li>・福祉用具の活用</li> </ul>	
移動・移乗の介護技術の基本	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動・移乗の介助を行うにあたって</li> <li>・体位交換の介助</li> <li>・車いすの介助</li> <li>・歩行の介助</li> </ul>	
食事の介護技術の基本	2.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の介助を行うにあたって</li> <li>・食事の介助</li> </ul>	
入浴・清潔保持の介護技術の基本	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴の介助を行うにあたって</li> <li>・入浴の介助</li> <li>・部分浴の介助</li> <li>・清潔保持の介助</li> </ul>	
排せつの介護技術の基本	2.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排せつの介助を行うにあたって</li> <li>・排せつの介助</li> </ul>	
着脱、整容、口腔清潔の介護技術の基本	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身じたくの介助を行うにあたって</li> <li>・衣類脱着の介助</li> <li>・整容の介助</li> <li>・口腔清潔の介助</li> </ul>	

家事援助の基本	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活と家事の理解</li> <li>・調理</li> <li>・洗濯</li> <li>・掃除・ごみ捨て</li> <li>・衣類の補修・裁縫</li> <li>・衣類・寝具の衛生管理</li> <li>・買い物</li> </ul>
評価の方法および基準	レポート問題による添削 70点以上で合格(69点以下の者は再度、試験・評価を行う)	
使用テキスト	中央法規出版株式会社発行『介護福祉士実務者研修テキスト(2巻)』	

## 介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

科目名	生活支援技術Ⅱ		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	30 時間
担当講師	小関美幸	必修・選択	必修
到達目標	環境整備、移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、休息・睡眠・人生の最終段階における介護、福祉用具等の活用のそれぞれについて、利用者の心身の状態に合わせた自立に向けた生活支援技術を理解し行うことができる。		
授業全体の内容の概要	レポート課題提出により、修得度の確認と質問票を用いての自己学習		
授業の目的・ねらい	①利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術、環境整備 移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具等の活用。		
授業項目	時間数	学習内容	
環境整備と福祉用具等の活用	2.0	・利用者に適した生活環境の整備 ・利用者に適した福祉用具の選定	
移動・移乗の生活支援技術	5.0	・体位交換の介助 ・車いすの介助 ・安楽な体位の保持と褥瘡の予防 ・歩行の介助 ・移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法	
食事の生活支援技術	3.0	・食事の介助 ・食事に関する福祉用具とその活用方法 ・誤嚥・窒息の予防 ・脱水の予防	
入浴・清潔保持の生活支援技術	4.0	・入浴の介助 ・入浴に関する福祉用具とその活用方法	
排せつの生活支援技術	4.0	・排せつの介助 ・排せつに関する福祉用具とその活用方法 ・頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁への対応 ・その他の排せつに関するさまざまな介助	
着脱、整容、口腔清潔の生活支援技術	4.0	・衣類脱着の介助 ・整容の介助 ・口腔清潔の介助	
休息・睡眠の生活支援技術	4.0	・休息・睡眠の介助を行うにあたって ・睡眠の介助 ・睡眠に関する用具とその活用方法 ・睡眠と薬	
人生の最終段階における介護の生活支援技術	4.0	・人生の最終段階における介護を行うにあたって ・人生の最終段階の介護 ・介護職、家族への支援	
評価の方法および基準	レポート問題による添削 70点以上で合格(69点以下の者は再度、試験・評価を行う)		
使用テキスト	中央法規出版株式会社発行 『介護福祉士実務者研修テキスト(3巻)』		

## 介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

科目名	介護過程 I		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	20 時間
担当講師	小関美幸	必修・選択	必修
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護過程の目的、意義、展開等を理解している。</li> <li>・ 介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。</li> <li>・ チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解している。</li> </ul>		
授業全体の内容の概要	レポート課題提出により、修得度の確認と質問票を用いての自己学習		
授業の目的・ねらい	<p>①介護過程の基礎的知識</p> <p>②介護過程の展開</p> <p>③介護過程とチームアプローチ</p>		
授業項目	時間数	学習内容	
介護過程の意義と目的	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の概念の見直し</li> <li>・根拠に基づいた介護の実践</li> <li>・介護過程の必要性</li> </ul>	
介護過程の展開	8.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程の展開イメージ</li> <li>・アセスメント</li> <li>・計画の立案</li> <li>・実施</li> <li>・評価</li> </ul>	
介護過程とチームアプローチ	8.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程とケアマネジメントの関係性</li> <li>・介護過程とチームアプローチ</li> </ul>	
評価の方法および基準	レポート問題による添削 70点以上で合格(69点以下の者は再度、試験・評価を行う)		
使用テキスト	中央法規出版株式会社発行 『介護福祉士実務者研修テキスト(3巻)』		

## 介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

科目名	介護過程Ⅱ		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	25 時間
担当講師	小関美幸	必修・選択	必修
到達目標	・ 情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。		
授業全体の内容の概要	レポート課題提出により、修得度の確認と質問票を用いての自己学習		
授業の目的・ねらい	<p>介護過程の展開の実際</p> <p>①利用者の状態(障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等)について事例を設定し、<u>介護過程を展開させる</u></p> <p>②観察のポイント、安全確保、事故防止、家族支援、他機関との連携等について考察</p>		
授業項目	時間数	学習内容	
介護職による介護過程の進め方	2.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の実践のなかにある介護過程</li> <li>・思考過程の訓練</li> <li>・ケアマネジメントをふまえた介護過程の展開</li> </ul>	
介護過程の実践的展開	1.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例で学ぶ介護過程の展開</li> <li>・取り上げる事例と構成</li> </ul>	
施設で暮らす高齢者の介護過程	6.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のプロフィール</li> <li>・家族構成および生活歴</li> <li>・現在の状況</li> <li>・Aさんのフェイスシート</li> <li>・Aさんのアセスメント表(1)</li> <li>・アセスメント表(2)作成におけるヒント</li> <li>・Aさんのアセスメント表(2)</li> <li>・Aさんの介護計画書</li> <li>・Aさんの実施評価表</li> </ul> <p>【解説】Aさんの介護過程について</p>	
在宅で暮らす高齢者の介護過程	6.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のプロフィール</li> <li>・家族構成および生活歴</li> <li>・現在の状況</li> <li>・Dさんのフェイスシート</li> <li>・Dさんのアセスメント表(1)</li> <li>・アセスメント表(2)作成におけるヒント</li> <li>・Dさんのアセスメント表(2)</li> <li>・Dさんの介護計画書</li> <li>・Dさんの実施評価表</li> </ul> <p>【解説】Dさんの介護過程について</p>	
演習課題:介護老人福祉施設で生活するGさんの事例	10.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のプロフィール</li> <li>・家族構成および生活歴</li> <li>・現在の状況</li> <li>・Gさんのフェイスシート</li> <li>・Gさんのアセスメント表(1)</li> <li>・Gさんのアセスメント表(2)</li> <li>・Gさんの介護計画書</li> </ul>	
評価の方法および基準	レポート問題による添削 70点以上で合格(69点以下の者は再度、試験・評価を行う)		
使用テキスト	中央法規出版株式会社発行 『介護福祉士実務者研修テキスト(4巻)』		

## 介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

科目名	介護過程Ⅲ		
授業の種類	面接授業	時間数(単位数)	45 時間
担当講師	小関美幸・鈴木景久・近野慎・中川智美・鈴木ひろ子	必修・選択	必修
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。</li> <li>・ 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護(アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等)を提供できる。</li> <li>・ 介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。</li> <li>・ 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。</li> </ul>		
授業全体の内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護過程の基礎知識と応用</li> <li>・ 演習(事例を用いたグループワーク・ロールプレイ)</li> <li>・ テキスト・プリントの事例に基づいた介護技術の評価</li> <li>・ 試験実施、解説</li> </ul>		
授業の目的・ねらい	<p>①介護過程の展開の実際</p> <p>多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価</p> <p>②介護技術の評価</p> <p>介護技術の原理原則の習得・実践とともに知識・技術を総合的に活用した判断力、応用力を評価</p>		
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回目(6h)</li> <li>介護の基本Ⅰ</li> <li>介護の基本Ⅱ</li> <li>コミュニケーション技術</li> <li>生活支援技術Ⅰ</li> <li>【介護過程の展開】</li> <li>・ 2回目(6h)</li> <li>介護過程Ⅰ</li> <li>介護過程Ⅱ</li> <li>介護過程の基礎知識と応用(ケアプランとサービス計画に関する基礎的理解、居宅サービス計画・訪問介護計画・通所介護計画等とサービスの関係)</li> <li>・ 3回目～6回目(3・4回×6時間)(5.6回×7.5時間)</li> <li>演習(事例を用いたグループワーク・ロールプレイ)</li> <li>【介護技術の評価】                    テキストの事例に基づいた介護技術の評価</li> <li>【知識等の修得度の評価】 試験実施、解説</li> <li>・ 7回目(6時間)</li> </ul>		

授業項目	時間数	学習内容
介護の基本Ⅰ	1.5	・介護福祉士制度、尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方、介護福祉士の倫理
介護の基本Ⅱ	1.5	・介護を必要とする人の生活の理解と支援、介護実践における連携 ・介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護福祉士の安全
コミュニケーション技術	1.5	・介護におけるコミュニケーション技術、介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション ・介護におけるチームのコミュニケーション
生活支援技術Ⅰ	1.5	・生活支援とICF、ボディメカニクスの活用、環境整備、福祉用具活用等の視点 ・介護技術の基本
介護過程Ⅰ	3	・介護過程の基礎的知識、介護過程の展開、介護過程とチームアプローチ
介護過程Ⅱ	3	・利用者の状態について事例を設定し介護過程を展開させる ・観察のポイント、安全確保、事故防止、家族支援、他機関との連携等について考察
利用者の特性に応じた介護過程の実線的展開	3.0	・利用者のさまざまな暮らしと介護過程の展開 ・第3章で取り上げる事例の特徴 ・演習の進め方
事例1: 片麻痺のある高齢者の夢の実現に向けた支援	7.5	・利用者のプロフィール ・家族構成および生活歴 ・現在の状況 ・Kさんのフェイスシート ・Kさんのアセスメント表(1) ・Kさんのアセスメント表(2) ・Kさんの介護計画書 ・Kさんの実施評価表 【解説】Kさんの介護過程について [演習]～Kさんの自立に向けた介護の実際 (移動・移乗の介護)～確認・評価してみよう！
事例2: 在宅で終末期を迎える高齢者と家族の生活支援	7.5	・利用者のプロフィール ・家族構成および生活歴 ・現在の状況 ・Nさんのフェイスシート ・Nさんのアセスメント表(1) ・Nさんのアセスメント表(2) ・Nさんの介護計画書 ・Nさんの実施評価表 【解説】Nさんの介護過程について [演習]～Nさんの自立に向けた介護の実際 (食事、身だしなみ、排せつの介護)～確認・評価してみよう！

<p>事例3: 都会に住む一人暮らし 高齢者の生活支援</p>	<p>7.5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のプロフィール</li> <li>・家族構成および生活歴</li> <li>・現在の状況</li> <li>・Fさんのフェイスシート</li> <li>・Fさんのアセスメント表(1)</li> <li>・Fさんのアセスメント表(2)</li> <li>・Fさんの介護計画書</li> <li>・Fさんの実施評価表</li> </ul> <p>【解説】Fさんの介護過程について [演習]～Fさんの自立に向けた介護の実際 (移動・移乗・排せつ介護)～確認・評価してみよう！</p>
<p>事例4: 介護老人保健施設で 生活する利用者への支援</p>	<p>7.5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のプロフィール</li> <li>・家族構成および生活歴</li> <li>・現在の状況</li> <li>・Sさんのフェイスシート</li> <li>・Sさんのアセスメント表(1)</li> <li>・Sさんのアセスメント表(2)</li> <li>・Sさんの介護計画書</li> <li>・Sさんの実施評価表</li> </ul> <p>【解説】Sさんの介護過程について [演習]～Sさんの自立に向けた介護の実際 (衣類の着脱、入浴の介護)～確認・評価してみよう！</p>
<p>評価の方法および基準</p>	<p>実技試験 70点以上で合格 筆記試験 70点以上で合格 実技・筆記試験両方の合格により科目の修了を認定する。(69点以下の者は再度、試験・評価を行う)</p>
<p>使用テキスト</p>	<p>中央法規出版株式会社発行 『介護福祉士実務者研修テキスト(4巻)』</p>

## 介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

科目名	こころとからだのしくみ I		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	20 時間
担当講師	小関美幸	必修・選択	必修
到達目標	・ 介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を習得している。		
授業全体の内容の概要	レポート課題提出により、修得度の確認と質問票を用いての自己学習		
授業の目的・ねらい	①介護に関係した身体の仕組みの基本的な理解(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等)		
授業項目	時間数	学習内容	
移動・移乗に関連するからだのしくみ	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な姿勢</li> <li>・基本的なからだのしくみ</li> </ul>	
食事に関連するからだのしくみ	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なからだのしくみ</li> <li>・栄養素とエネルギー</li> <li>・代償的な栄養摂取法</li> </ul>	
入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なからだのしくみ</li> <li>・入浴と清潔保持の意味</li> </ul>	
排せつに関連するからだのしくみ	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なからだのしくみ</li> </ul>	
着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なからだのしくみ</li> <li>・着脱、整容、口腔清潔の意味</li> </ul>	
休息・睡眠に関連するからだのしくみ	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なからだのしくみ</li> <li>・こころのしくみ</li> </ul>	
評価の方法および基準	レポート問題による添削 70点以上で合格(69点以下の者は再度、試験・評価を行う)		
使用テキスト	中央法規出版株式会社発行 『介護福祉士実務者研修テキスト(4巻)』		

## 介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

科目名	こころとからだのしくみⅡ		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	60 時間
担当講師	小関美幸	必修・選択	必修
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得している。</li> <li>・ 生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得している。</li> <li>・ 身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、観察・アセスメント、関連する職種との連携が行える。</li> </ul>		
授業全体の内容の概要	レポート課題提出により、修得度の確認と質問票を用いての自己学習		
授業の目的・ねらい	<p>①人間の心理                  ②人間の構造と機能                  ③身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、連携等を理解する                  (留意点: 移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排せつ、着脱・整容・口腔清潔、休息・睡眠・人生の最終段階のケア)</p>		
授業項目	時間数	学習内容	
人間の心理	10.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の欲求の基本的理解</li> <li>・こころのしくみの基礎</li> </ul>	
人体の構造と機能	14.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の維持・恒常のしくみ</li> <li>・人間のからだのしくみ</li> <li>・ボディメカニクスの活用</li> </ul>	
移動・移乗における観察のポイント	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動・移乗を阻害する要因の理解</li> <li>・変化に気づくための観察のポイント</li> <li>・医療職との連携のポイント</li> </ul>	
食事における観察のポイント	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事を阻害する要因の理解</li> <li>・変化に気づくための観察のポイント</li> <li>・医療職との連携のポイント</li> </ul>	
入浴・清潔保持における観察のポイント	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴を阻害する要因の理解</li> <li>・変化に気づくための観察のポイント</li> <li>・医療職との連携のポイント</li> </ul>	
排せつにおける観察のポイント	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排せつを阻害する要因の理解</li> <li>・変化に気づくための観察のポイント</li> <li>・医療職との連携のポイント</li> </ul>	
着脱、整容、口腔清潔における観察のポイント	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身支度を阻害する要因の理解</li> <li>・変化に気づくための観察のポイント</li> <li>・医療職との連携のポイント</li> </ul>	
休息・睡眠における観察のポイント	6.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠を阻害する要因の理解</li> <li>・変化に気づくための観察のポイント</li> </ul>	
人生の最終段階におけるケアにおける観察のポイント	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終末期の理解</li> <li>・こころのしくみ</li> <li>・終末期から危篤状態の変化の特徴</li> <li>・死後の対応</li> <li>・医療職との連携のポイント</li> <li>・家族へのケア</li> </ul>	
評価の方法および基準	レポート問題による添削 70点以上で合格(69点以下の者は再度、試験・評価を行う)		
使用テキスト	中央法規出版株式会社発行 『介護福祉士実務者研修テキスト(5巻)』		

## 介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

科目名	発達と老化の理解 I		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	10 時間
担当講師	小関美幸	必修・選択	必修
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。</li> <li>・ 老化に伴う身体機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。</li> </ul>		
授業全体の内容の概要	レポート課題提出により、修得度の確認と質問票を用いての自己学習		
授業の目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>①老化に伴う心の変化と日常生活への影響</li> <li>②老化に伴う身体の変化と日常生活への影響</li> </ul>		
授業項目	時間数	学習内容	
こころの変化と日常生活への影響	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老化が及ぼす心理的影響</li> <li>・ 自己概念と生きがい</li> </ul>	
からだの変化と日常生活への影響	6.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加齢に伴う身体機能の変化と日常生活への影響</li> <li>・ さまざまな機能の変化</li> </ul>	
評価の方法および基準	レポート問題による添削 70点以上で合格(69点以下の者は再度、試験・評価を行う)		
使用テキスト	中央法規出版株式会社発行 『介護福祉士実務者研修テキスト(4巻)』		

## 介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

科目名	発達と老化の理解Ⅱ		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	20 時間
担当講師	小関美幸	必修・選択	必修
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。</li> <li>・ 老年期の発達課題、心理的な課題(老年化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。</li> <li>・ 高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。</li> </ul>		
授業全体の内容の概要	レポート課題提出により、修得度の確認と質問票を用いての自己学習		
授業の目的・ねらい	<p>①人間の成長・発達</p> <p>②老年期の発達・成熟と心理</p> <p>③高齢者に多い症状・疾病等と留意点</p>		
授業項目	時間数	学習内容	
人間の成長・発達	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発達の定義</li> <li>・ 発達段階と発達課題</li> <li>・ 各ライフサイクルの発達</li> </ul>	
老年期の発達・成熟と心理	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老年期の定義</li> <li>・ 老年期の心理的課題と適応</li> <li>・ 要介護状態と高齢者の心理</li> <li>・ 不適応状態を緩和する心理</li> </ul>	
高齢者に多くみられる症状・疾病等	14.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者に多くみられる症状・訴えとその留意点</li> <li>・ 介護を要する高齢者によくみられる病気・病態</li> </ul>	
評価の方法および基準	レポート問題による添削 70点以上で合格(69点以下の者は再度、試験・評価を行う)		
使用テキスト	中央法規出版株式会社発行 『介護福祉士実務者研修テキスト(4巻)』		

## 介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

科目名	認知症の理解 I		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	10 時間
担当講師	小関美幸	必修・選択	必修
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。</li> <li>・ 認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</li> <li>・ 認知症の人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。</li> </ul>		
授業全体の内容の概要	レポート課題提出により、修得度の確認と質問票を用いての自己学習		
授業の目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>①認知症ケアの理念</li> <li>②認知症による生活障害、心理・行動の特徴</li> <li>③認知症の人や家族への関わり・支援の基本</li> </ul>		
授業項目	時間数	学習内容	
認知症ケアの理念と視点	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケアを取り巻く状況</li> <li>・認知症ケアの理念</li> <li>・認知症ケアの視点</li> </ul>	
認知症による生活障害、心理・行動の特徴	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人」と「生活」の理解</li> <li>・認知症ケアはなぜ「人」と「生活」に焦点をあてる必要があるのか</li> <li>・認知症の中核症状</li> <li>・認知症の行動・心理症状(BPSD)</li> <li>・意識障害の理解</li> <li>・生活障害の理解</li> </ul>	
認知症の人とのかかわり・支援の基本	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人にかかわる際の前提</li> <li>・実際のかかわり方の基本</li> <li>・家族への支援</li> </ul>	
評価の方法および基準	レポート問題による添削 70点以上で合格(69点以下の者は再度、試験・評価を行う)		
使用テキスト	中央法規出版株式会社発行 『介護福祉士実務者研修テキスト(4巻)』		

## 介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

科目名	認知症の理解Ⅱ		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	20 時間
担当講師	小関美幸	必修・選択	必修
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 代表的な認知症(若年性認知症を含む)の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。</li> <li>・ 認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念に基づいた支援ができる。</li> <li>・ 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</li> </ul>		
授業全体の内容の概要	レポート課題提出により、修得度の確認と質問票を用いての自己学習		
授業の目的・ねらい	<p>①医学的側面から見た認知症の理解</p> <p>②認知症の人への支援の実際</p>		
授業項目	時間数	学習内容	
医学的側面からみた認知症の理解	10.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症とは</li> <li>・ 認知症の診断</li> <li>・ 認知症の原因疾患とその病態</li> <li>・ 認知症の治療と予防</li> </ul>	
認知症の人や家族への支援の実際	10.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症のアセスメント</li> <li>・ 中核症状へのかかわり方の実際</li> <li>・ BPSD(行動心理症状)へのかかわり方の実際</li> <li>・ 環境整備</li> <li>・ 認知症ケアにおけるチームアプローチ</li> </ul> <p>認知症の人へのさまざまなアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域生活の支援</li> </ul>	
評価の方法および基準	レポート問題による添削 70点以上で合格(69点以下の者は再度、試験・評価を行う)		
使用テキスト	中央法規出版株式会社発行 『介護福祉士実務者研修テキスト(4巻)』		

## 介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

科目名	障害の理解 I		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	10 時間
担当講師	小関美幸	必修・選択	必修
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害の概念や変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。</li> <li>・ 障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</li> <li>・ 障害のある人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。</li> </ul>		
授業全体の内容の概要	レポート課題提出により、修得度の確認と質問票を用いての自己学習		
授業の目的・ねらい	<p>①障害者福祉の理念</p> <p>②障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴</p> <p>③障害のある人やその家族への関わり・支援の基本</p>		
授業項目	時間数	学習内容	
障害者福祉の理念	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「障害」のとらえ方</li> <li>・国際障害分類と国際生活機能分類</li> <li>・障害福祉の基本理念</li> <li>・障害の法的定義</li> </ul>	
障害による生活障害、心理・行動の特徴	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体障害による生活上の障害と心理・行動の特徴</li> <li>・知的障害による生活上の障害と心理・行動の特徴</li> <li>・精神障害による生活上の障害と心理・行動の特徴</li> <li>・高次機能障害による生活上の障害と心理・行動の特徴</li> <li>・発達障害による生活上の障害と心理・行動の特徴</li> <li>・難病による心理・行動の特徴</li> </ul>	
障害児・者や家族へのかかわり・支援の基本	2.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある人へのかかわり・支援の基本</li> <li>・家族の理解と障害の受容支援</li> <li>・介護負担の軽減</li> </ul>	
評価の方法および基準	レポート問題による添削 70点以上で合格(69点以下の者は再度、試験・評価を行う)		
使用テキスト	中央法規出版株式会社発行 『介護福祉士実務者研修テキスト(4巻)』		

## 介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

科目名	障害の理解Ⅱ		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	20 時間
担当講師	小関美幸	必修・選択	必修
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している。</li> <li>・ 障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</li> <li>・ 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</li> </ul>		
授業全体の内容の概要	レポート課題提出により、修得度の確認と質問票を用いての自己学習		
授業の目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>①医学的側面からみた障害の理解</li> <li>②障害の特性に応じた支援の実際</li> </ul>		
授業項目	時間数	学習内容	
医学的側面からみた障害	15.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害</li> <li>・聴覚・言語障害</li> <li>・運動機能障害</li> <li>・心臓機能障害</li> <li>・呼吸機能障害</li> <li>・腎臓機能障害</li> <li>・膀胱・直腸機能障害</li> <li>・小腸機能障害</li> <li>・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害</li> <li>・肝臓機能障害</li> <li>・知的障害</li> <li>・精神障害</li> <li>・高次脳機能障害</li> <li>・発達障害</li> <li>・難病</li> </ul>	
障害児・者への支援の実際	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントの視点と個別支援</li> <li>・障害のある人がふつうに暮らせる地域づくり</li> <li>・地域におけるサポート体制</li> </ul>	
評価の方法および基準	レポート問題による添削 70点以上で合格(69点以下の者は再度、試験・評価を行う)		
使用テキスト	中央法規出版株式会社発行 『介護福祉士実務者研修テキスト(4巻)』		

## 介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

科目名	医療的ケア		
授業の種類	通信50時間・面接授業15時間	時間数(単位数)	65 時間
担当講師	吉田直子・加藤由美	必修・選択	必修
到達目標	・ 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する		
授業全体の内容の概要	レポート課題提出により、修得度の確認と質問票を用いての自己学習		
授業の目的・ねらい	①医療的ケア実施の基礎 ②喀痰吸引(基礎的知識・実施手順) ③経管栄養(基礎的な知識・実施の手順) ④演習		
演習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 喀痰吸引の基礎的知識と実施手順の確認</li> <li>・ シュミレーターによる喀痰吸引の実技演習(口腔、鼻腔、気管カニューレ内部を各5回以上)</li> <li>・ 経管栄養の基礎的知識と実施手順の確認</li> <li>・ シュミレーターによる経管栄養の実技演習(胃ろう又は腸ろう、経鼻経管栄養を各5回以上)</li> <li>・ 救急蘇生法演習(1回以上)</li> </ul>		
授業項目	時間数	学習内容	
通信:医療的ケア	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・喀痰吸引制度(社会福祉士及び介護福祉士の改正)</li> <li>・医療的ケアと喀痰吸引等の背景</li> <li>・医療行為について</li> <li>・その他の制度</li> </ul>	
通信:安全な療養生活	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・喀痰吸引や経管栄養の安全な実施</li> <li>・救急蘇生</li> </ul>	
通信:清潔保持と感染予防	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防</li> <li>・介護職の感染予防</li> <li>・療養環境の清潔、消毒法</li> <li>・消毒と滅菌</li> </ul>	
通信:健康状態の把握	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体・精神の健康</li> <li>・健康状態を知る項目(バイタルサインなど)</li> <li>・急変状態について</li> </ul>	
通信:高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	10.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論</li> </ul>	
通信:高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	6.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説</li> </ul>	
通信:高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	10.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者及び障害児・者の経管栄養概論</li> </ul>	
通信:高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	6.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説</li> </ul>	
喀痰吸引のケアの実施の手引き	7.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔内および鼻腔内</li> <li>・気管カニューレ内部</li> </ul>	

経管栄養の実施の手引き	7.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胃ろう又は腸ろうによる経管栄養</li> <li>・半固形化栄養剤による胃ろう又は腸ろうの経管栄養</li> <li>・経鼻経管栄養</li> </ul>
救急蘇生法の手引き	1.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急蘇生法</li> <li>・AED使用の手順</li> </ul>
評価の方法および基準	【通信】レポート問題による添削 70点以上で合格(69点以下の者は再度、試験・評価を行う)	
	<p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 喀痰吸引 口腔内・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部それぞれのシュミレーター演習を5回以上、指導評価によって平均60点以上で合格</li> <li>・ 経管栄養 胃ろう又は腸ろう・経鼻、それぞれシュミレーター演習を5回以上、指導者評価によって平均60点以上で合格とする</li> </ul> <p>※通信・演習(喀痰吸引・経管栄養)、両方の合格により科目の修了を認定する</p>	
使用テキスト	中央法規出版株式会社発行 『介護福祉士実務者研修テキスト(5巻)』	